



Vol.48

朝な朝なあがる雲雀になりてしか 都に行きてはや帰り来る

安部沙弥麻呂

巻二十

四四三三番歌

【訳】毎朝空に翔りとぶヒバリになりたい。
そうしたら、都へ行つてすぐに帰つてこよう。

ヒバリになりたい

ヒバリは、春になると野原や田園地帯で、オスが自分の縄張りを主張するためにはえずりながら高く飛ぶ「あげ雲雀」と呼ばれる行動をとることで知られています。体色は茶褐色に黒い斑点と少々地味ですが、その美しいさえずりから、古今東西を問きました。

この歌でも、そんなのどかな春の風物詩であるヒバリが詠まれています。ただ、のどかさというよりは、空を飛べるヒバリになりたい、という願望を表現することが主だったようで、ヒバリだったら今すぐに都に行つて帰つてすることもできるのに、と嘆いています。

家持はまた別のときにも、有名なヒバリの歌を残しています。「うらうに照れる春日に雲雀あがり情悲しも独りしおもへば」(卷十九・四二九)

歌が詠されたのは、天平勝宝七歳(七五五年)三月三日に難波で催された宴の席上で、このとき安部沙弥麻呂は、北九州の国境警備のために派遣される防人たちを点検管理する役人として難波にいました。そこから

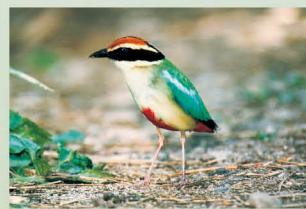
平城京へ行って再び任地に戻るには二日程必要だつたとみられます。現代のように電車や車で簡単に行き来はできなかつたわけで、だからこそ、ヒバリになりたい、と考えたようです。同席していた大伴家持も「雲雀あがる春みなびく」(卷二十・四四三四)と詠みました。

『万葉集』に載るヒバリの歌はこの三首だけですが、それぞれに深い情趣があるように思います。

(本文 万葉文化館 井上さやか)



ブッポウソウ(絶滅寸前種)



ヤイロチョウ(絶滅寸前種)

問 県景観・自然環境課

☎ 0742-27-8757

✉ www.pref.nara.jp/2613.htm

奈良の希少な 野生動植物

県内にはさまざまな種類の野鳥が生息しています。しかし中には、数が減少して絶滅のおそれがある種もあります。

県では、「奈良県希少野生動植物の保護に関する条例」の制定や、絶滅のおそれのある野生動植物の情報を記載した「奈良県版レッドデータブック」を作成し、希少な野生動植物の保護に取り組んでいます。

万葉ちゃんの
つぶやき
「和歌に関連するものをお届けするよ!!」



万葉ちゃん